



る う て る

2013年
10月
No.795

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話 03-3260-8631

■振替口座■ 00190-7-71734
■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 徳野昌博 ms-otokuno@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

説教 「神様の恵みによって弟子となる」

日本福音ルーテル小石川教会 徳野昌博

「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父母、妻子、兄弟、姉妹を、更に自分の命であるとしても、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。自分の十字架を背負って来なければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。」

ルカによる福音書14章25〜33節

ある安息日、イエス様はファリサイ派の議員の家に招かれて食事をされました。食事を終えてその家を出られると、大勢の群衆と一緒に付いてきました。そこで、イエス様は振り返って彼らと向き合い、弟子であらうとする者の覚悟を語られます。

天国へと帰っていかれたイエス様は、エルサレムへの旅の途中、折に触れ、天国への旅の心得を教えてくださいました。

旅の秘訣は、「荷物は少なく、身軽に」と言うことです。今日、イエス様は「自分の十字架を背負って来よう」と言われます。これは難題です。ですから、「腰を据えて計算」するように、「腰を据えて考えて」みるようにと教えてくださいました。

「父、母、妻子、兄弟、姉妹を、さらに自分の命であるとしても、これを憎まないなら……」とは実に厳しい。イエス様は、家族の係累をあげつつ、父から始まって、母、妻子、兄弟、姉妹を、さらに自分の命にまで及んで、それを憎み、拒否することを要求されます。「家族」の全員で、一人の例外もないのです。これができないなら、イエス様に従う者としてはふさわしくないのです。



これは、一人ひとりの中にあるエゴイズムへの警鐘、挑戦です。家族のエゴ、国家のエゴ、人類のエゴがあります。それはどんなところにも顔を出しています。神の国で生きるために、エゴイズムとの、まことに厳しい、妥協することのない戦いが求められます。それは、父なる神様の心に従って、すべての人を救うために、ご自身を十字架に



イエス様は「まず腰を据えて」と言われます。それはイエス様に従う覚悟があるかどうか、そのために一切を捨てる覚悟があるかどうか、前もって計算し、じっくり考えなさいということでしょう。人生について、将来について、真剣に考えるべきです。しかし、思い悩んではいけません。

渡されたイエス様の生き方そのものでした。

今、イエス様は、自分の十字架を負って従って来るのでなければ、わたしの弟子ではありえないと断言して、イエス様の弟子であることを、つまり、ご自分と同じように生きることを弟子たちに、愛する者たち、私たちに期待されたのです。

「自分の命を憎み、自分の十字架を背負って来よう」と言われます。イエス様は、大切な家族、そして、身近であれば身近であるほど心通わせる仲間に対して、自由を保つことができるかと問うておられます。

「愛には恐れがない」とヨハネは教えてくれました。愛は、そのように、本物の愛はすべての恐れ、委縮から私たちに解き放し、自由になります。それと同時に、真実の愛は、最愛の者に対しても抵抗する、あらがう力を持つ者として。

弟子たちは、すべてを捨ててイエス様に従いました。しかし、ある時、ペトロはこう言いました。「この通り、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、わたしたちは何をいただけるのでしょうか。ペトロは何もかも捨てて従っていたつもりでしたが、どうも、自分自身は捨てていなかったのです。結局、私たちが、どこまで行ってもそうなのです。自分を捨てきれないのです。それでもいいのです。そのままイエス様の十字架のもとへ行くのです。イエス様のもとに、自分の十字架を抱えて行くことが許されています。」

イエス様の厳しい言葉は、裏を返せば、神様の恵みがあります。それだけ頼みとすればよし、他のものは一切必要無しとのよき知らせなのです。神様の恵み、慈しみによってのみ、私たちは救われ、今日も生かされています。

「教会手帳2014」
お申し込み先
北野キリスト教書局 (TEL:011-737-1721/FAX:011-747-5979)
キリスト教書局(リナ) (TEL:03-3269-4490/FAX:03-3269-4491)
キリスト教書局(イナ) (TEL:054-54-0264/FAX:054-54-4161)
キリスト教書局(カ) (TEL:052-741-2121/FAX:052-733-2688)
キリスト教書局(ク) (TEL:0798-67-0289/FAX:0798-67-3289)
キリスト教書局(コ) (TEL:052-282-4814/FAX:052-282-0251)
キリスト教書局(ク) (TEL:096-972-3509/FAX 未定)
*上記以外はお申し込みできません。

定価 1,100円

宗教改革500周年に向けて
ルターの意味を改めて考える(18)

ルター研究所所長 鈴木浩

ルターの研究は「神の言葉」の神学であった。創世記によれば、神の創造活動の最初は、「神は光あれ」と言われた(「口語訳」とあるように、神が語った、という事実であった。この創世記の言葉を意識しつつ、福音書記者ヨハネは、「初めに言(ことば)があった」と福音書を書き出した。

日本語の「言葉」は「事柄」(こと)の、つまり「事柄の周辺」に由来するといふ。「言葉」は「事柄そのもの」とは別個なのだ。ところが、「神の言葉」とは、紙にプリントされた文字のことではない。それは言葉が指し示す事態を創造する「力」溢れる神の活動のことだ。それは、言い換えれば、聖霊の息吹のことなのだ。

ルターという言葉に力があるのは、神の言葉への集中的取り組みから、そう確信していたからである。

ルター研究の神学は「神の言葉」の神学であった。創世記によれば、神の創造活動の最初は、「神は光あれ」と言われた(「口語訳」とあるように、神が語った、という事実であった。この創世記の言葉を意識しつつ、福音書記者ヨハネは、「初めに言(ことば)があった」と福音書を書き出した。

日本語の「言葉」は「事柄」(こと)の、つまり「事柄の周辺」に由来するといふ。「言葉」は「事柄そのもの」とは別個なのだ。ところが、「神の言葉」とは、紙にプリントされた文字のことではない。それは言葉が指し示す事態を創造する「力」溢れる神の活動のことだ。それは、言い換えれば、聖霊の息吹のことなのだ。

ルターという言葉に力があるのは、神の言葉への集中的取り組みから、そう確信していたからである。

ルーテル教会の女子学生会館
カテリーナ
やさしい心配りにあふれた
安心・快適なカレッジライフのために

耐震工事が完了しました!
個室 全156室
(音大生向け連音室あり)
お申し込み・お問い合わせは
東京都文京区千石二丁目30-12
TEL:03-3942-2291 FAX:03-3945-2281
<http://www.katherina.gr.jp>

一致に関するルーテル＝ローマ・カトリック委員会、京都で開催



「一致に関するルーテル＝ローマ・カトリック委員会」のルーテル側委員 鈴木 浩

毎年夏に一週間の会期で開かれてきた「一致に関するルーテル＝ローマ・カトリック委員会」が、八月二日から二〇日の会期で、京都の聖公会教区事務所の会議室をお借りして開かれた。

ドア一枚を隔てたパレスサイド・ホテルが委員の宿舎となり、朝晩の礼拝は歩いて三〇秒の聖公会主教座聖堂、聖アグネス教会を使わせていただいた。

テーマは、「洗礼と交わり」の成長であった。誰もが洗礼によってキリストの一つの体に結び付けられているのに、どうして教会の一致の目に見える徴である聖餐が分かれているのか、どうしたらそれを克服できるのか、という問題である。

四回の委員会を経てまとめた『対決から交わりへ』という共同文書が六月に公表されたばかりなので、今度はまず、大幅に

共通の理解を持っている洗礼を足掛かりに、最大の問題である聖餐の一致をどのようにして達成するのか、目標である。

カトリックの委員とルーテルの委員が、朝晩の礼拝を毎日交代で担当するのだが、カトリックの担当の時にはルーテルの委員は陪餐せず、ルーテルが担当するときはカトリックの委員が陪餐しないということを毎日繰り返すので、いやでも聖餐における分離が目立つ。「洗礼で一致」、「聖餐で分離」というこの二つの事態をどうしたら乗り

越えることができるのか、今回の議論を通して、道は遠いという思いがした。しかし、「継続は力なり」だし、「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」ので、ここは忍耐強く継続する」のが大事であろう。

一八日の日曜日はそろって京都教会に出席し、その後、京都の史跡巡り、一九日は奈良の史跡巡りをした。この間、日本聖公会の多大な協力を受け、カトリック教会からもサポートがあり、一五日には日本福音ルーテル教会による歓迎夕食会が開かれた。

東日本大震災から二年半が経過し、ルーテル教会救援の活動内容も活動当初から大きく変化しています。今月号では、女性連盟主催の現地見学会（復興ツアー）と仮設団地自治会夏祭り支援について報告させていただきます。

【現地見学会（復興ツアー）】
9月6・7日、札幌教会3名、八王子教会2名の計5名の参加者により実施しました。
一日目は、仮設追波川河川団地集会所で「つるしびな」関係者との交流会。地元ボランティア団体と仮設団地の住民の方との交わりでは、実際の被災場面のお話をお聞きし、被災された方々の痛みを共に分かち合う機会となりました。
7月から8月にかけては、被災地の各所で夏祭りが開催されました。とりわけ



2013年8月5日、熊本森都心プラザホールにおいて、日本福音ルーテル幼稚園・保育園連合会保育者研修会を開催しました。講師に、本田哲郎先生（フランスシスコ会司祭・釜ヶ崎失業連絡会共同代表）、尾道幸子先生（熊本江津湖療育医療センター地域療育部長）、平川雅子先生（親子育ちの会「おてんとさん」主宰）をお迎えし、総勢149名（一般来場者含む）の皆さんと学びのときを持ちました。字数に限りがありますが、少しずつ紹介いたします。

尾道幸子先生は、特別支援の必要な就学前の子どもたちの居場所と支援の連携を、家族・幼稚園／保育園・児童発達支援センター・行政等を巻き込みつつ作り上げていかれた方です。「保育はそれぞれの子どもへの成長に合わせ、臨機応変に対応することが大切です。子どもたちにとって、保育者がかかわってくれる時間が何よりの宝ものなので

平川雅子先生は、「わらべうた」を通した子どもたちのかかわりについて、実践を交えて話されました。「わらべうたは、『ドレミソラ』の5音階で

できています。これは、調子がずれにならない音階で、発達段階の子どもの耳や声帯にはこの音階がとても心地よく響くといわれています。」

本田哲郎 神父は、新約聖書で「愛」と訳されているギリシア語「アガペー」を問い直すことを通して、子どもたちに「社会で弱い立場に立たされてる人たちに」対する、わたしたちの関わり姿勢を考えてみましょう、と語られました。関わりが「あわれみ」や「ほどこし」に

なるとき相手の尊厳をないがしろにしてしまうからです。「アガペー」とは、to feel and exhibit esteem and goodwill to person です。本田神父はこれを「大切にすること」と訳しておられます。皆さんもそれぞれに訳してみてくださいいかがでしょうか。

さて、それぞれの講演が、保育者に対する遂行的なメッセージであり、その働きへの（関わりへの）応援（祝福）であったことが、参加者の一人として何よりも嬉しいことでした。皆さん、ありがとうございます。



本田哲郎 神父は、新約聖書で「愛」と訳されているギリシア語「アガペー」を問い直すことを通して、子どもたちに「社会で弱い立場に立たされてる人たちに」対する、わたしたちの関わり姿勢を考えてみましょう、と語られました。関わりが「あわれみ」や「ほどこし」に

今年夏祭り用のボスター・チラシ作りやTシャツ作りなどの事前準備から当日の屋台の出店まで、昨年以上に様々なお手伝いをしました。夏祭り開催3日前からは、近畿福音ルーテル鈴鹿教会の方やルーテル学院大の学生ボランティア9人がシャボン玉作りやイモ餅作り、会場設営などの準備にフル回転し、当日の開催に備えました。

お祭り当日は、昨年同様お天気に恵まれ、ルーテル学院大の学生が担当したシャボン玉などの子どもコーナーは、切れることなく子どもも大人も遊びに来て、おおいに楽しんでいました。イモ餅などの屋台もお昼時は時々人が並ぶなど盛況でした。

今年夏祭り用のボスター・チラシ作りやTシャツ作りなどの事前準備から当日の屋台の出店まで、昨年以上に様々なお手伝いをしました。夏祭り開催3日前からは、近畿福音ルーテル鈴鹿教会の方やルーテル学院大の学生ボランティア9人がシャボン玉作りやイモ餅作り、会場設営などの準備にフル回転し、当日の開催に備えました。

今年夏祭り用のボスター・チラシ作りやTシャツ作りなどの事前準備から当日の屋台の出店まで、昨年以上に様々なお手伝いをしました。夏祭り開催3日前からは、近畿福音ルーテル鈴鹿教会の方やルーテル学院大の学生ボランティア9人がシャボン玉作りやイモ餅作り、会場設営などの準備にフル回転し、当日の開催に備えました。

【仮設団地夏祭り支援】
佐藤文敏 チーフスタッフ
7月から8月にかけては、被災地の各所で夏祭りが開催されました。とりわけ

今年夏祭り用のボスター・チラシ作りやTシャツ作りなどの事前準備から当日の屋台の出店まで、昨年以上に様々なお手伝いをしました。夏祭り開催3日前からは、近畿福音ルーテル鈴鹿教会の方やルーテル学院大の学生ボランティア9人がシャボン玉作りやイモ餅作り、会場設営などの準備にフル回転し、当日の開催に備えました。

J L E R (ルーテル教会救援) 対策本部
現地からのレポート
J L E R 派遣教師 野口勝彦

「ルーテルとなりびと」
http://utheran-tonanbi.to.blogspot.jp/



第二章「震災後に迎える宗教改革五〇〇周年 その三」愛の実践を伴う信仰こそ大切

宗教改革記念日を月の終わりに祝う十月に入る。と例年のことながら、自身のルター研究遍歴を振り返る。その度に、おこがましく「もしもシユタウピッツ博士のおかげがなかったならば、私は冥府に落ち込んでいたことだろう」とルターが常々

「尊いのは、愛によって働く信仰だけである」(ラテヤ五・六)(一九五四年改訳)に起因して、アウグスチヌスに遡りトリエント公会議で議された

論点に言及、なぜ著書の標題に「愛において活動する信仰」を選択されたかであった。教授は直ぐさま「よい質問だ。それこそ講義の核心テーマに関わるから、講義の最後まで一緒に問い詰めよう」と応じられた。長年にわたって教授の知遇を得るきっかけともなったのである。

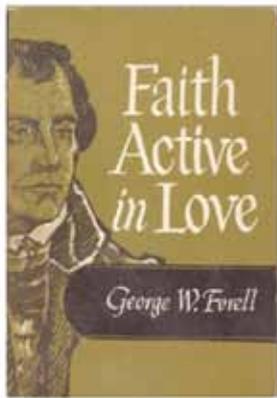
フオレル教授との出会いは(一九五九年)、最初の受講課題「キリスト教倫理」のテキストについてであった。それは同教授の著作「ルターの社会倫理の基盤原理の検査」を副題にもつ「Faith Active in Love (一九五四年)で、初回のクラス直後に面接、自己紹介を兼ねてまずそのテキストの書名についてたずねた。かねて北森先生からしく

「目には目を、歯には歯を」その真意とはうららに、暴虐が繰り返され、人々の報復、争いは増幅するばかり。現代の報道でも、人々の和解のむずかしさを思い知らされま

思いは三十年を飛び越えるが、長期に亘る海外出向を終えて帰国(一九九四年)、新共同訳の聖書を読み出して、このガラテヤ5・6が「愛の実践を伴う信仰こそ大切です」に訳出されているのを感懐深く読み取った。

つい二年前に帰天したフオレル教授が著作当時の「faith working through love: (RSV) や「faith which worketh by love: (KW) の聖句を意図的に「faith active in love」と読み変えた神学労作を偲びながら、とりわけ「震災後」の「絆とボランティア」が全国に共鳴するなか、ルターの「信仰のゆえに自由をえたキリスト者の愛の奉仕」に重ね合わせ、心に確と受け止めて回想するしたい。

年ごとに、新たな思いを呼び覚ます宗教改革記念日がやってくる。いしたよろうう引退教師、九州ルーテル学院大学名誉学長・WBC 元神学部長



Augsburg Publishing House, 1959年版

平和の主・平和の園

ステンドグラス工房 アスカ
山崎種之(松本教会会員)

「目には目を、歯には歯を」その真意とはうららに、暴虐が繰り返され、人々の報復、争いは増幅するばかり。現代の報道でも、人々の和解のむずかしさを思い知らされま

迎えています。その民宿に、海上を往來する船上からもよく見えるようにと、厚板ガラス(タル・ド・ベール)の「平和の園」(『イザヤ書』11・1-10)というステンドグラスが入っています。オーナーの石原正生

三重県志摩市志摩町に「海の家ベート・シャローム」(民宿)があります。真珠の養殖で知られる英廣



さん夫妻(近畿福音ルーテル教会会員)は、平和の主を信じ、平和の園の実現を祈り、平和を叫び続けています。



第51回関西地区CS合同キャンプ

あついあつい都会から、山深い奥猪名川健康の郷で、第51回関西地区CS合同キャンプが開催されました。総勢69名。テーマは何と!「ルター」。2017年の宗教改革500周年に備えて、ルターの生涯と人となり、そして働きについて少しでも子供たちと分かち合いたいと準備を進めました。

生涯」の劇のDVD監修に関わった田畑牧師からもお話を聴くことができました。雷に打たれる場面、回心の場面、ヴォルムスの国会での「我れ、ここに立つ」、書物を焼く場面が描かれることで、視覚の力で言葉以上にルターを知る方法を教えられました。

デオに撮ってくれました。小学生たちも、開会礼拝の沼崎先生のお話、アイズブレイクでの、「宗教改革に行こうよ!」(猛獣狩りに行こうよ!)、光延牧師のルターの紙芝居、渡辺神学生の朝の礼拝、いずれも熱のこもった先生方のお話に圧倒されて、何となくルターというの、雷に打たれて、神さまを信じて、聖書を深く読んだ人というあたりまでは伝わったのではないのでしょうか。何よりもキャンプファイヤーで撮影された本を焼く場面が、強くまなこに残って



いる(しまっている)かもしれませぬ。中高生の劇は、9月23日に予定されている、西教区50周年記念大会にて放映予定、その後順次全国の各教会に拡大予定です。ごつごつ期待(笑)！(キャンプ長 松本善昌牧師)



講演でした。引き続き、シンポジウムと発題のプログラムでは、主題を踏まえ、法人格の違いを超えて「新しい宣教」を共に担うために共有すべき事柄や新しい宣教とは何かについて、高井保雄牧師の司会により討議がなされました。

白川道生氏（ルーテル教会事務局長）は、この連合会では教会十教会をより広げて、宣教は伝道教師（社会福祉）と「宣教共同体」と宣言したと説明の上で、我々は創業の祈りからここに至るまで貫かれた一途に加えられており、クリスチャン、ノンクリスチャンを超えて集められ、選ばれた働き人ではないか？ また託された働きに込める活力は、感謝と良質の誇りではないかと語りました。

中島康文氏（社会福祉協会会長）は、法人会連合が目指すは、法人の違いはあっても、それが制約に作用せず、各々が主体的に役割を果たしながら、目標を共有し共に力を合わせて活動する「協働」ではないか？ この点で、より新しく作り上げてゆくのは、宣教協働体になるだろうと用語使用と組織定義に関する提言がありました。

総会協議では、各法人会及び連合会諸委員会の活動報告がなされ、相互理解を深めた後、今後の活動方針が協議されました。まずは、今後8月の最終週には法人会連合による何らかの企画が実施される前提をルーテルグループで共有する基本合意がなされ、2014年は「研修会を実施、開催地は熊本とする決定がなされました。更に、本総会

での発題を通じた提言と、各委員会及び分科会で上がった要望事項の実現に向けて、各法人会・諸委員会が協働する同意が出席者同士で確認されました。

ル教会がサンパウロに設立されて、50周年の記念日になります。また、当地宣教計画に従い経済自給達成の予定の年でもあります。そして、2017年には宗教改革500周年を迎えます。

八月二七日から二八日にかけて、日本福音ルーテル東京教会宣教百年記念会堂を会場にして、『第一回とうてる法人会連合総会』が開催されました。2002年に、熊本に集められた教会、学校、社会福祉、幼稚園保育園の働きを託された人々が集まった場で、「とうてる法人会連合設立宣言」が出されました。これが第一回の連合総会でありましたが、第10回目となる本総会は、その宣言文から引用した「新しい宣教の展開に向かうために」が主題に掲げられました。

石居基夫氏（ルーテル学院大学教授）は神学校が牧師とキリスト教指導者の養成という出発から、心と福祉と魂の高度な専門家養成、来年から他者支援の専門職養成にまで拡がってきた教育の展開こそが新しさであり、多様な宣教課題を意識したミッションの実践そのものであったと述べられました。更に、学校がキリスト教精神に基づき、人を愛し、他者を支援する人材育成の使命を自覚し、実現してゆく目標実現には、教育者の確保・育成が極めて重要と指摘されました。

キリスト教社会福祉の実践からは高橋睦氏（社会福祉法人東京老人ホーム施設統括長）が、使命に基づく方針として、高齢者施設での新しい取り組みと位置付ける看取りケアの実践報告がなされました。現在の医療機関との関係を見据えて、施設が終の棲家となるための準備に取り掛かって見えてきている。死についての働き人の理解、利用者も含めた霊的要望への応えといった課題に關して、具体的に教会と協働する様子と今後の可能性等について語られました。

白川道生氏（ルーテル教会事務局長）は、この連合会では教会十教会をより広げて、宣教は伝道教師（社会福祉）と「宣教共同体」と宣言したと説明の上で、我々は創業の祈りからここに至るまで貫かれた一途に加えられており、クリスチャン、ノンクリスチャンを超えて集められ、選ばれた働き人ではないか？ また託された働きに込める活力は、感謝と良質の誇りではないかと語りました。

発題では、市川一宏氏（ルーテル学院大学教授）は私たちに求められている事柄を列挙した後、これに取り組んできたルーテルグループの足跡を紹介しました。現状の急務は働きの養成と括り、これを進めるために連合会に研修チームを設置して研修と個別支援を推進できる専任チーム組織の提言がなされました。滝田浩之氏（ルーテル大阪教会牧師・連合会組織検討委員会会長）は連合会の構成員を拡げる必然を指

二日目は、東日本大震災のルーテル教会救援となりびとへの派遣牧師である野口勝彦牧師により、スライドを交えて、現地報告と支援の取り組みを通じた証しが語られるデイポーションをもって、始まりました。

この後、参加者は6グループに分かれて、それぞれの持ち場での働きを踏まえながら、昨日からの投げかけについて、ま

合い、祈りあったに違いない。そしてまた、新しくされて出かけて行った。法人会連合は、主の御前で、このような場ではないか」と明確なメッセージが述べられました。次に、藤敷庸一（ふじやぶよういち）牧師を基調講演にお迎えしました。（写真右）「自殺の名所」と呼ばれる、和歌山県白浜市の三段壁にほど近い「白浜バプテスト基督教會」の牧師であり、自殺防止から自立支援まで取り組むNPO法人代表も務める藤敷牧師は、この活動を通じて問われているのは、まず「良心と覚悟」であると語られました。

「昨年、NHK番組プロフェッショナルに出演された後日談」、「現代に生きて働かれる神様を証明する業と自覚している」、「立ち直っていく人に共通した要素は、時間と場所と人の助けであった」と等、体験に裏打ちされた言葉が力強く迫ってくる

「神の願い」先輩宣教師の皆様、祈り支えてくださった日本の皆様、ブラジルで歴史を背負ってこられた先人たちにも感謝をしましょう。JELCが海外に宣教をし、産み落とした教会が立派に成長し、独り立ちをしていく日を一緒に見届け、立ち合います。それは、自分（JELC）がかつて歩んだ道でもあります。

「神の招き・訪伯旅行」現在、JELC世界宣教委員会と連絡を取りながら、準備を進めています。関わりがあるブラジル各地の教会や施設だけでなく、大自然と共に新興国で活気にあふれる各地を巡る旅（一部オプシオン）になります。詳細はこれからお知らせがあるでしょう。皆様のおいでをお待ちしています。

ブラジル・サンパウロ教会 徳弘浩隆

お喜びと訂正
本紙9月号カタヤ宣教師の略歴中、帰国職年が誤っていました。正しくは1994年でした。

お喜びと訂正
本紙9月号カタヤ宣教師の略歴中、帰国職年が誤ってしまいました。正しくは1994年でした。

八月二七日から二八日にかけて、日本福音ルーテル東京教会宣教百年記念会堂を会場にして、『第一回とうてる法人会連合総会』が開催されました。2002年に、熊本に集められた教会、学校、社会福祉、幼稚園保育園の働きを託された人々が集まった場で、「とうてる法人会連合設立宣言」が出されました。これが第一回の連合総会でありましたが、第10回目となる本総会は、その宣言文から引用した「新しい宣教の展開に向かうために」が主題に掲げられました。

石居基夫氏（ルーテル学院大学教授）は神学校が牧師とキリスト教指導者の養成という出発から、心と福祉と魂の高度な専門家養成、来年から他者支援の専門職養成にまで拡がってきた教育の展開こそが新しさであり、多様な宣教課題を意識したミッションの実践そのものであったと述べられました。更に、学校がキリスト教精神に基づき、人を愛し、他者を支援する人材育成の使命を自覚し、実現してゆく目標実現には、教育者の確保・育成が極めて重要と指摘されました。

キリスト教社会福祉の実践からは高橋睦氏（社会福祉法人東京老人ホーム施設統括長）が、使命に基づく方針として、高齢者施設での新しい取り組みと位置付ける看取りケアの実践報告がなされました。現在の医療機関との関係を見据えて、施設が終の棲家となるための準備に取り掛かって見えてきている。死についての働き人の理解、利用者も含めた霊的要望への応えといった課題に關して、具体的に教会と協働する様子と今後の可能性等について語られました。

白川道生氏（ルーテル教会事務局長）は、この連合会では教会十教会をより広げて、宣教は伝道教師（社会福祉）と「宣教共同体」と宣言したと説明の上で、我々は創業の祈りからここに至るまで貫かれた一途に加えられており、クリスチャン、ノンクリスチャンを超えて集められ、選ばれた働き人ではないか？ また託された働きに込める活力は、感謝と良質の誇りではないかと語りました。

発題では、市川一宏氏（ルーテル学院大学教授）は私たちに求められている事柄を列挙した後、これに取り組んできたルーテルグループの足跡を紹介しました。現状の急務は働きの養成と括り、これを進めるために連合会に研修チームを設置して研修と個別支援を推進できる専任チーム組織の提言がなされました。滝田浩之氏（ルーテル大阪教会牧師・連合会組織検討委員会会長）は連合会の構成員を拡げる必然を指

二日目は、東日本大震災のルーテル教会救援となりびとへの派遣牧師である野口勝彦牧師により、スライドを交えて、現地報告と支援の取り組みを通じた証しが語られるデイポーションをもって、始まりました。

この後、参加者は6グループに分かれて、それぞれの持ち場での働きを踏まえながら、昨日からの投げかけについて、ま



2015年は
ブラジルで！
宣教50周年訪伯旅行

「神の時」

2020年のオリンピック・パラリンピック開催地が東京に決まりましたね。2016年のブラジルからバトンが渡される先が日本というのは、日系人の方々には、新興国ブラジルの成長と日本の復興を祈り、感慨ひとしおでもあります。

2015年の宗教改革記念日は、日本福音ルーテル教会（JELC）の宣教開始により日系ルーテ

ル教会がサンパウロに設立されて、50周年の記念日になります。また、当地宣教計画に従い経済自給達成の予定の年でもあります。そして、2017年には宗教改革500周年を迎えます。